

学校保健 知得情報

千葉県教育庁教育振興部
学校安全保健課 保健班
平成26年9月 発行

vol. 13



ヒトスジシマカ



「デング熱」ってどんな病気？

熱帯で流行、高熱や関節に痛み

問1 デング熱とは、どのような病気ですか？

答 デングウイルスが感染しておこる急性の熱性感染症で、発熱、頭痛、筋肉痛や皮膚の発疹などが主な症状です。発熱は2～7日間持続し、初期症状に続き、全身の筋肉痛、骨関節痛、全身倦怠感を呈します。発症後3～4日後、胸部、体幹から始まる発疹が出現し、四肢、顔面に広がります。症状は1週間程度で回復します。

なお、ごくまれに一部の患者において、発熱2～7日後、血漿漏出に伴うショックと出血傾向を主な症状とする致死的病態が出現することがあります。

問2 どのようにして感染するのですか？

答 ウイルスに感染した患者を蚊が吸血すると、蚊の体内でウイルスが増殖し、その蚊が他者を吸血することでウイルスが感染します（蚊媒介性）。ヒトからヒトに直接感染するような病気ではありません。また、感染しても発症しないことも多くみられます。

問3 日本国内での発生はありますか？

答 海外の流行地で感染し帰国した症例が近年では毎年200名前後報告されています。日本国内で感染した症例は、過去60年以上報告されていませんでしたが、2014年8月には、国内感染例が確認されています。

蚊が媒介、虫よけで予防を

竹林、公園や庭の木陰などでの作業時には長袖、長ズボンで予防を

問4 日本国内でデング熱に感染する可能性はあるのでしょうか？

答 日本にはデング熱の主たる媒介蚊のネッタイシマカは常在していませんが、媒介能力があるヒトスジシマカは日本のほとんどの地域（青森県以南）に生息しています。このことから、仮に流行地でウイルスに感染した発症期の人（日本人帰国者ないしは外国人旅行者）が国内で蚊にさされ、その蚊がたまたま他者を吸血した場合に、感染する可能性は低いながらもあり得ます。ただし、仮にそのようなことが起きたとしても、その蚊は冬を越えて生息できず、また、卵を介してウイルスが次世代の蚊に伝わることも報告されたことがないため、限定された場所での一過性の感染と考えられます。

なお、ヒトスジシマカは、日中、屋外での活動性が高く、活動範囲は50～100メートル程度です。国内の活動時期は概ね5月中旬～10月下旬頃までです。

問5 どのように予防すればよいですか？

答 有効なワクチンはありません。蚊に刺されないように注意しましょう。長袖、長ズボンの着用が推奨されます。

庭先のバケツなど水がたまって蚊の幼虫が発生しやすい場所を作らないことも効果的である

問6 国内で感染したと推定される場所において、蚊に刺された場合どのようにしたらよいですか？

答 過度に心配する必要はありませんが、蚊に刺されてから3～7日程度で高熱が見られたら、早めに医療機関を受診してください。

<参考資料>

□デング熱に関するQ&A http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/dengue_fever_qa.html

□デング熱とは - 国立感染症研究所 www.nih.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/238-dengue-info.html



この「知得情報」は校内で印刷し、教職員に配布するか、回覧をお願いします。